

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100535		
法人名	社会福祉法人光志福祉会		
事業所名	ネムの木グループホーム円座		
所在地	香川県高松市円座町西村94番1		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町受理日	令和5年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物はGLT工法を採用したスギの木をふんだんに使用しており、木の温もりを感じられ心安らぐ空間を作っている。また、備え付けられたオープンキッチンで3食とも食事を手作りしている。調理を通じて五感をバランスよく刺激することをモットーにしている。ご利用者の方々と一緒にキッチンに立つことで、その方が生き生きと生活できるように心がけている。さらに、手作りのおやつ作りや季節の行事に合わせたイベント・外出など、楽しく生きがいのある毎日を提供している。また、手作りの品を利用者がコミュニティセンターに届ける等、地域の方々との交流を大切にしてい穏やかな生活ができる様に支援している。(新型コロナウイルス感染拡大時は自粛)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

1階はデイサービス、2階にグループホームが2ユニットある。内部はスギ材が多く取入れられ、木のぬくもりとさわやかな香りが満ちている空間となっている。備え付けられたオープンキッチンでは利用者と職員と一緒に料理をしたり、家事を共同で行っている。事業所では年間の業務計画を策定し、職員も責任と遣り甲斐を持ち仕事に励んでいる。利用者が生きがいのある楽しい生活を送ることで出来ることを増やし、自信を持って暮らせるよう配慮された事業所である。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営指針書を手に毎日の朝礼を行ない、経営理念や施設方針の唱和・『職員に大切にしたい基本姿勢』の音読を通して、意識の共有をしている	事業所の運営や業務を網羅した経営指針書を基に朝礼を行い、施設方針や経営理念を唱和したり話し合い、職員に共通の意識を浸透させている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により地域を巻き込んだ夏まつりの開催や地域のボランティアの方々の受け入れはできなかった。ドライブ等、ご利用者の希望に合わせて適宜行っている	コロナ感染症拡大の社会的影響が継続されており、地域や近所との交流は自粛されている。事業所内では規模を縮小してイベントや外出を行っている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活かしている	認知症カフェ運営の中止、運営推進会議の書面開催(新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から高松市より指示)の影響により、今年度は思うような取り組みが行えていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による開催とした。施設内での開催については、実施できていない	コロナ禍であり、運営推進会議は書面での開催となっている。事業所利用者の現状や動向、イベント、職員研修などの情報を関係者に報告されており、家族にも送られている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点・不安な点があればすぐに連絡を取り、相談をしている	運営推進会議の報告は行政の担当者に届けられている。事業所の実情を理解いただき、不明な点や相談をして、アドバイス等も頂いている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。玄関の施錠は、安全上行なっている。当年において疑義はみられていない	年間事業計画に基づいて委員会を開き検討がなされている。研修は年2回行い、職員の理解が深められている。具体的なケアに拘束は見られない。時間ごとに利用者の居場所確認等安全対策も実施されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。当年において疑義は見られていない		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では不十分である。今後研修会のテーマとして取り上げて、取り組んでいきたい。また、外部研修(オンライン含め)への積極的参加により不足を埋めていきたい			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をし、理解・納得していただいた上で、同意を得ている。改定あった場合には、その都度文章を用いて説明を行っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有を密に行い、普段から意見、要望を聞く機会を持つようにしている。頂いた意見、要望については、委員会や部門別会議等に反映させている。各会議での決定事項は、議事録を回覧して職員間で共有している	月1回は郵送にて生活の様子を報告し、写真も同封されている。少しの変化でも欠かさず家族に連絡が心掛けられている。家族等に連絡する際には、報告に留まらず、意見や要望も聞かれている。要望等は各委員会や部門会議に諮られ、運営に反映されている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月上長との面談を実施しており、問題点も含めて情報の共有をしている。運営に関する意見についても、面談時に集約している	職員は仕事をするうえで個々人が役割を持ち、研修を経てレベルアップしている。毎月管理者との面談があり、事業所をよりよくする機会となっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として新しい人事制度を取り入れ、個々の目標に応じた業務ができる様に環境を整え、支援している。その達成度によって評価されることにより、向上心を持って働くことができるようにしている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の目標に応じて、様々な支援を行っている。サービス基準書に沿ったケアができる様に、全員が同じ研修を受ける機会を作っている。また、技術については、実技研修を実施し、ランクアップができる様に計画されている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の見学希望には柔軟に応じて、職員同士の交流に努めている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない、ご本人との良好な関係づくりから始めている。現状を把握しつつ、ご本人の希望や考えをお聞きし、想いを汲み取る努力をしている。職員間で情報共有を行い、全員が好みや生活歴、習慣などを知っておくようにしている。その場しのぎにせず申し送りを徹底し統一している			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族との良好な関係づくりを行うように心がけている。ご家族からお話を伺う時間を十分にとり、ご家族の想いを汲み取る努力をしている。入居後はこまめに様子を電話等で伝達している。また、入居2週間後にプランを見直し、困りごとやサービス提供内容の改善を行っている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞いたうえで入居判定会議やカンファレンスを開催し、ご利用者に必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの提供ができるように努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、互いに教え教わりながら家事や物づくりを行なう中で、家庭的な雰囲気を作ることができている。生活リハビリの観点から食事づくり等の家事動作に積極的に参加して頂いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対面での面会が制限されている中で、できるだけ顔が見られるようにしたり、電話での会話ができる機会を作るなどの工夫を行っている(新型コロナウイルス感染拡大時期にはガラス越しもしくはテレビ電話での対応としている)			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用、買い物の希望があれば、ご家族と相談して出来る限り実現できるようにしている。感染対策を十分におこなった上で、病院受診に出かけた際には、自宅のある地域を回るなどの工夫を行っている。 ご家族からの電話や来所時の面会等、機会確保をすすめている(接触機会の増加)	コロナ感染を避けるために外出を控えたり、面会を短時間にして直に触れ合う機会が少なくなっている。出来るだけ利用者の様子を家族等に伝えたり、ガラス越しでの対応、テレビ電話や携帯で話が出来るよう支援がなされている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、ご利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるように支援している。認知症や言語障害により他者との関りが困難な方は職員がこまめな声掛けを積極的に行い、また一対一で関わる事で信頼関係を構築し孤独感を感じさせないように努めて援助している			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りを頂くなど、交流を大切にしている。退居した後の様子を伺うために、施設から連絡を入れている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく生活できるように、ご利用者の生活歴を把握し、職員間で情報共有できるようにしている。本人の意向を大切にし、想いを汲み取る努力をしている	それとなく利用者に寄り添い、その人の言葉や暮らしの様子から思いや意向を汲み取れるよう努めている。また、生活歴や家族から話を聞き、職員間で話し合いをしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞き、現在までの生活や暮らし方、家族の中や職場での役割など、これまでに歩んできた人生を知るように努めている。また、ものの好みや嗜好を把握するように努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の現在の状態把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が自分の担当するご利用者のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスを実施して意見交換しながら計画立案を行っている。ご家族とは面会時や電話連絡する機会を通じて情報の交換を行っている	モニタリングは担当職員が行い、月1回のカンファレンスに諮り、意見交換して計画書の立案がなされている。本人や家族等には面会時や連絡時に話し合い意見や要望が聞かれている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の入力や申し送りの実施により、日々の状態や情報を共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の研修参加により得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医の利用を優先的に行なっている。協力病院での受診を希望する場合は、毎月の往診時に情報を共有し、適切に対応ができる様になっている	利用者や家族等の選択でかかりつけ医が決められており、入所以前からのかかりつけ医への受診や協力医療機関への受診、往診等事業所と家族が連携して、情報の共有や支援がなされている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職種を超えて、報告・連絡・相談をして、適切な対応ができるように努めている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院との情報交換に努めている。退院時のカンファレンスには積極的に参加し、病院関係者との信頼関係を構築するように努めている	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明している。又、実際にそのようなことになった場合はご利用者・ご家族の意志を尊重した対応をしている	契約時に重度化した場合の事業所の在り方や出来る対応を説明し同意が得られている。状態の変化に伴い医師や利用者家族等と話し合いながら、利用者や家族の意思を尊重した取り組みが行われている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。急変時の対応については、実技を取り入れた研修を開催している	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの作成・災害時の避難訓練等をしている。県下一斉のシェイクアウト訓練にも参加した	年間実施計画により年3回の避難訓練が実施されている。防災委員会を中心に、マニュアルの作成や避難訓練の企画・実施、備蓄の点検等を計画的に行い災害に備えられている

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守るような言葉のかけ方、対応の仕方に十分注意している。個浴での入浴や排泄の確認等は他のご利用者に聞こえないよう配慮している	職員が接遇やマナーの講習を受けるなど、利用者の対応や声のかけ方などに気を付けられている。また、排泄や入浴時等プライバシーが損なわれないよう配慮がなされている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、ご利用者のペースで過ごしていただけるように支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の好きなように自由にして頂いている。化粧をする方もいれば、カツラを使用している方もいる。入浴時には着替えの用意等、ご本人と一緒にしている。好きな服を選んでもらっている。居室から出る際に手鏡とブラシを渡し、身だしなみを整えて頂いている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る範囲で調理・盛り付け・後片づけを行っている。自力摂取が続けられるように食事形態の変更や、視野狭窄に対応するため器の配置に配慮を行っている	献立は法人の栄養士が考え、旬の食材を中心とした食事が提供されている。利用者と職員が共同で食事やおやつづくりを行い、日々の生活がより活気づくよう配慮がなされている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については、栄養士が管理しているメニューを提供している。食事量・水分量は、記録し把握できるようにしている。ご本人の好みや体調等に合わせて提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご本人だけで不十分な場合は、職員が介助している。提携する訪問歯科と連携を図り、年に一度の無料健診を受けている。必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアを受けられている			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行なっている	一人ひとりの利用者の排泄パターンを記録により把握して、声掛けや誘導によりトイレでの排泄が無理なく行われるよう支援がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分摂取量は、都度チェックし記録している。その方に応じた対応で調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週3回の午前中としているが、ご利用者に合わせて時間や日には変更している。フロの日(26日)イベントで入浴剤入りのお風呂の日を設けている。湯の温度や時間など、個人の希望に応じている	入浴を楽しむ演出として、一人ひとりに職員が付き添い、楽しい話をしながら着替えやシャンプーの準備したり、イベント日が設定されていたり工夫がみられる。また、利用者に合わせて時間やお湯を調整して、週3回の入浴が実施されている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのペースで就寝・臥床・起床して頂いているが、なるべく日中の活動時間を増やし、夜間安眠できるように生活リズムを整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を個々のファイルで管理し、全職員が把握できるようにしている。与薬時は、ダブルチェックや声出し確認等を徹底し、誤薬防止に努めている。服薬後の空袋チェックを行い、服薬忘れ防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除等、その方が好きなことや得意なことをして頂いている。その時々体調や気分に合わせて、決して無理強いはしないようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立て、季節を感じるような催しと外出を行うようにしている。施設周辺の散歩やテラスでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している	年間計画に沿って、月1回は外出の企画がなされている。外出は、良い気分転換の機械となっている様子である。その他、施設周辺の散歩やテラスで外気浴、花の手入れ等日々の支援もなされている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望とご家族の理解で、少額の現金を手持ちされているご利用者もいる。「買い物に出かけ、自分で支払いをしたりお釣りの管理をすること」をプランに盛り込み、計画的に実施しているご利用者もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、好きな時に連絡を取ることを制限していない。そうでない方も、希望があれば、ご家族と電話で直接話すことができるように支援している。季節の便りをご家族に送るよう、支援している。ご本人の申し出時に事務所で電話して頂いている。馴染みのご友人からの手紙や連絡も続いており、順次取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスでは季節の花を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行なっている。室内には、天窓から自然光を取り入れている。共用部分には、ご利用者と職員が共同で作成して、季節を感じることが出来るような飾り付けを行っている	事業所には2か所にテラスがあり、お茶をゆっくり嗜むなど居心地のよい場所となっている。廊下やリビングは掃除が行き届き、所々にソファが置かれ利用者がくつろいでいる。中央部分にオープンキッチンと食堂があり、生活感が感じられる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は固定せず、好きな時に好きな場所に座って頂いている。場面に合わせて机の配置も変えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを自由に持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地の良い空間を作っていたいでいる	室内は木の温かみを感じられる造りとなっている。利用者は使い慣れた家具や小物を持参して、居心地よい住まいとしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営指針書を手に毎日の朝礼を行ない、経営理念や施設方針の唱和・『職員に大切にしたい基本姿勢』の音読を通して、意識の共有をしている。音読し所感を述べ、各自の意識向上に努めている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度より認知症カフェ中止。火災における避難訓練を周辺住民参加として計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴って中止が続いている。状況に合わせて順次開催としたい
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ運営を通じて地域の方々との連携を取りながら、地域との交流を深めている。さらに、認知症に対する理解や支援のついてお話しできる機会としている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による開催とした。施設内での開催については、実施できていない
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点・不安な点があればすぐに連絡を取り、相談をしている。 Ipadを用いてご利用者の取り組みの様子を撮影し、定期的に地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を訪問の上で内容紹介している
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。 玄関の施錠は、安全上行なっている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では不十分である。今後研修会のテーマとして取り上げて、取り組んでいきたい
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をし、理解・納得していただいた上で、同意を得ている。改定あった場合には、その都度文章を用いて説明を行っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有を密に行い、普段から意見、要望を聞く機会を持つようにしている。頂いた意見、要望については、委員会や部門別会議等に反映させている。各会議での決定事項は、議事録を回覧して職員間で共有している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月上長との面談を実施しており、問題点も含めて情報の共有をしている。運営に関する意見についても、面談時に集約している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として新しい人事制度を取り入れ、個々の目標に応じた業務ができる様に環境を整え、支援している。その達成度によって評価されることにより、向上心を持って働くことができるようにしている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の目標に応じて、様々な支援を行っている。サービス基準書に沿ったケアができる様に、全員が同じ研修を受ける機会を作っている。また、技術については、実技研修を実施し、ランクアップができる様に計画されている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の見学希望には柔軟に応じて、職員同士の交流に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない、本人との良好な関係づくりから始めている。現状を把握しつつ、ご本人の希望や考えをお聞きし、想いを汲み取る努力をしている。認知症状の影響でうまく思いが伝えられない方についてはご家族に情報提供の協力を頂き、日々の中でアプローチできるよう取り組んでいる
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族との良好な関係づくりを行うように心がけている。ご家族からお話を伺う時間を十分にとり、ご家族の想いを汲み取る努力をしている。入居以降も定期的に電話等で状況報告を行い、ご家族が安心できるよう努めている。状況報告の頻度は入居前にご家族に確認している
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞いたうえで入居判定会議やカンファレンスを開催し、ご利用者に必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの提供ができるように努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、互いに教え教わりながら家事や物づくりを行なう中で、家庭的な雰囲気を作ることができている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への毎月の便りに添えて、ご利用者の日常の様子の写真をお送りしている。面会が制限されている中で、できるだけ顔が見られるようにしたり、電話での会話ができる機会を作るなどの工夫を行っている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用、買い物の希望があれば、ご家族と相談して出来る限り実現できるようにしている。認知症カフェにご利用者の友人が来られた時には、おしゃべりできる機会を提供している。携帯電話を所持されているご利用者もあり、ご友人やご家族との会話を行って気分転換につながっている例が見られている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、ご利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるように支援している
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りを頂くなど、交流を大切にしている。退居した後の様子を伺うために、施設から連絡を入れている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく生活できるように、ご利用者の生活歴を大切にし、想いを汲み取る努力をしている。 日々の暮らしの中での会話や行動から職員が思いを汲み取るよう努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞き、背景や生活歴だけでなく、好みや嗜好を把握するように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の状態把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が自分の担当するご利用者のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスを実施して意見交換している。ご家族とは面会時や電話連絡する機会を通じて情報の交換を行っている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の入力や申し送りの実施により、日々の状態や情報を共有している。 問題が生じた場合、都度で現場で話し合っている。また、朝の申し送り時にはミニカンファレンスを行っている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、職員の研修に「介護保険」に関する内容を取り入れ、基本的な事だけでなく、新しい情報を得ることができる様にしている。得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望するかかりつけ医の利用をを優先的に行なっている。協力病院での受診を希望する場合は、毎月の往診時に情報を共有し、適切に対応ができる様にしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職種を超えて、報告・連絡・相談をして、適切な対応ができるように努めている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院との情報交換に努めている。退院時のカンファレンスには積極的に参加し、病院関係者との信頼関係を構築するように努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明している。又、実際にそのようなことになった場合はご利用者・ご家族の意志を尊重した対応をしている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。急変時の対応については、実技を取り入れた研修を開催している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの作成・災害時の避難訓練等をしている。県下一斉のシェイクアウト訓練にも参加した

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守るような言葉のかけ方、対応の仕方に十分注意している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、ご利用者のペースで過ごしていただけるように支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の好きなように自由にして頂いている。入浴後の着替えを選んでもらう時もある。また、ご利用者を担当する職員が温かいおしぼりや化粧水、ブラン、鑑を用意して一日の始まりを気持ちよく過ごして頂けるよう支援をしており、ご利用者から好評を頂いている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る範囲で調理・後片づけを行っている。定期的に提供希望する食事のアンケートをとり、ご利用者各自の誕生日等で提供している。また、希望するお店に外出する取り組みも行った
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については、栄養士が管理しているメニューを提供している。食事量・水分量は、記録し把握できるようにしている。ご本人の好みや体調等に合わせて、ご家族からの差し入れや栄養ドリンク等の提供も行っている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご本人だけで不十分な場合は、職員が介助している。歯科往診を1～2回/月、外部の訪問歯科診療所に依頼している(希望者)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行なっている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分摂取量は、都度チェックし記録している。その方に応じた対応で調整している。排便の状況を見ながら、内服の調整を行い排便のリズムを整えるようにしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週3回の午前中としているが、ご利用者に合わせて時間や日にちは変更している。体調管理に努め、血圧や熱発の変動に注意し、安心、安全な入浴に努めている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのペースで就寝・臥床・起床して頂いているが、なるべく日中の活動時間を増やし、夜間安眠できるように生活リズムを整えている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を個々のファイルで管理し、全職員が把握できるようにしている。与薬時は、ダブルチェックや声出し確認等を徹底し、誤薬防止に努めている。服薬後の空袋チェックを行い、服薬忘れ防止に努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除等、その方が好きなことや得意なことをして頂いている。その時々の体調や気分に合わせて、決して無理強いはいないようにしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立て、季節を感じるような催しと外出を行うようにしている。施設周辺の散歩やテラスでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望とご家族の理解で、少額の現金を手持ちされているご利用者もいる。散歩のついでに自販機で飲み物を買うこともある。個人の希望に合わせ、スーパーに買い物に出かけ、支払い・お釣りの管理を行うこともある
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族と電話で直接話すことができるように支援している。 季節の便りをご家族に送るように、支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスでは季節の花を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行なっている。 室内には、天窓から自然光を取り入れている。 共用部分には、ご利用者と職員が共同で作成して、季節を感じることが出来るような飾り付けを行っている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は固定せずに、好きな時に好きな場所に座って頂いている。場面に合わせて機の配置も変えている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを自由に持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地の良い空間を作っていただいている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している